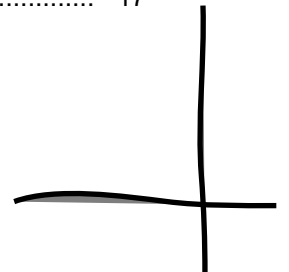


South Wind

港区国際交流協会
Minato International Association

目次・Contents・目录

サウス・ウインド翻訳者・イラストレーター紹介：伊藤 志織	2
South Wind Translator and Editorial Staff Member: Shiori ITO	2
「南风」编辑人员之介绍 伊藤志织	2
ステイーヴンス・はるみのアメリカ便り(49) おしゃれは自己主張	3
A letter from the USA (49) Fashion is a statement	4
美国来信(49) 时尚是表现自己	4
おしゃれについて	5
About "dressing smartly"	5
谈谈时尚	5
おしゃれ	6
Fashion	7
时髦	9
おしゃれ	10
Dressy clothes	10
时髦	11
万国四方八方(2) 外見は大切だ	12
Every Direction of the World (2) Outward Appearance is Important	13
万国四面八方(2) 外表要讲究	14
注連縄(しめなわ)	16
Shimenawa	16
稻草绳(西迈纳瓦)	16
編集後記	17
Postscript	17
编辑後记	17



▪ サウス・ウィンド編集スタッフ紹介 ▪ **South Wind Editorial Staff** ▪
▪ 「南风」编辑人员之介绍 ▪

サウス・ウィンド翻訳者・イラストレーター紹介：伊藤 志織

No. 52 から挿絵、エッセイ、テーマ発案、英訳などのお手伝いをしています。10 歳から約 10 年をケニア、マレーシア、香港で過ごしました。好きなおしゃれは 'simple beauty' です。



South Wind Translator and Editorial Staff Member: Shiori ITO

My drawings and essays appeared in South Wind (SW) No. 52 and I helped decide the theme and translated articles into English for SW No. 53. I lived in Kenya, Malaysia and Hong Kong for ten years from the age of ten. My favorite fashion is of 'simple beauty.'

「南风」编辑人员之介绍 伊藤志织

从 No. 52 开始参加作成本刊的活动，例如插图，小品文，题目提案，英译等等。我自己从 10 岁在肯尼亚，马来西亚，香港度过了约 10 年。喜欢的好打扮是 'simple beauty' 。

[翻译：古川 智子]

スティーヴンス・はるみのアメリカ便り (49) おしゃれは自己主張

スティーヴンス・はるみ

[2006年11月24日]

おしゃれ、と言うとまずほとんどの人が装いのことを頭に思い浮かべるのではないだろうか。その昔、アパレル業界で仕事をしていたこともあって、私もやはりおしゃれと言えば第一に服のことを考える。しかしながら、おしゃれというのはどんな物を食べるか、どんな車を運転するか、どんなバケーションを過ごすか、とういうことにも当てはまるものだ。

実際、おしゃれというのは私たちの生活のほとんどすべての分野に入り込んでいる。おしゃれとは視覚に訴えるものだけではなく、概念、姿勢、哲学にも入り込んでいるものではないだろうか。と言うよりむしろ、概念、姿勢、哲学があって、おしゃれが生まれてくるものなのだ。おしゃれとは結局は自己主張の手段なのだから。

子どもの頃、映画を観に行くとか、百貨店へ買い物に行く、というのは特別な時だけに着ることが許されたよそ行きの服を着る機会であった。近所の食品店に行くには綺麗な服を着ることは許されないが、電車に乗って映画館や百貨店へ行く時はそれが許されたのである。思い起こせば、私の母にとっても日ごろの家事から逃れて綺麗な服と香水に身を包む少ない機会であったに違いない。その後、十代に突入すると、私はジーンズと暗い色彩のティーシャツに魅せられてしまった。母と一緒におしゃれをして買い物に出かけると、母はピンクのような柔らか

い色彩の服を私に買おうとしたのだが、私が魅かれたのは女性らしくない色ばかりだった。しかし、私の服の選択はおしゃれに対して無頓着だった結果では決してなかったのである。母はよく、私のタンスを開けては暗い色ばかりの私の服にため息をついたものである。でもそれは、私なりにこだわりを持って選んだ服ばかり。擦り切れたジーンズと暗い色のトップ、これが私のファッションを通しての自己主張だったのであろう。

日本の社会で育つ女の子として、私は伝統的な日本女性になることを拒み続けていたように思う。その当時、社会は私に大人になったら夫や子どものために料理や掃除をする良き妻、良き母になることが私の役目と言っているように思ったものだ。学校では家庭科の授業が大嫌いで、料理やお裁縫など絶対に習いたくないと思ったのである。私のために用意されていた型にはどうしても入りたくなかった。だから綺麗な服や女らしい服を着たくなかったのかもしれない。

あれから、私のおしゃれを通しての自己主張は随分変わった。未だにピンクの服は苦手だが、明るい色の服や、黄色などの柔らかい色も着る。今でもジーンズが大好きだが、ときどき女性らしい服も着る。そして今は料理も大好きだ。アメリカに来てから、そういう服を着ることも、料理をすることも、しなければならぬからではなく、自分の選択なのだという概念、姿勢が持てたからであろう。

日本語で話す会 / "Let's Chat in Japanese"

港区国際交流協会では、日本語を勉強していても実際に話す機会がない外国人の方、新しく友だちをつくりたい、話題に興味をお持ちの外国人の方を対象に「日本語で話す会」を毎月1回、土曜日に開いています。LCJ ボランティアスタッフがお待ちしております。ぜひ一度、ご参加ください。

日にち： 2月17日(土)、3月17日(土) 4月14日(土) 午前11時～午後12時30分

場所： 三田 NN ホール スペース D (港区芝 4-1-23)

If you do not have any opportunity to speak it out in spite of studying Japanese, or if you want to make friends, and have an interest in discussion/exchange of opinions, you are welcome to join our LCJ, "Let's Chat in Japanese," meeting. Let's have great fun chatting in Japanese!! Feel free to join us.

Date: Saturdays, February 17, March 17 and April 14

Time: From 11:00 a.m. to 12:30 p.m.

Place: Mita NN Hall, Space D, 4-1-23 Shiba, Minato-ku, Tokyo

A letter from the USA (49) Fashion is a statement

Harumi N. STEPHENS

[November 24, 2006]

When you say fashion or being fashionable, I believe that most of us immediately think about clothes. I once worked in the apparel industry, and I too think about clothes first when it comes to fashion. However, fashion is in the food you eat, the cars you drive, how you spend your vacation, etc. In fact, fashion is a part of every aspect of our lives. Fashion is not only applied to something visual but also to your concept of, attitude to or philosophy on life. It is better to say that most visual fashion we know is the result of having a certain concept or philosophy. After all, fashion is a statement.

I remember when I was little, going to see a movie or going to a department store was an opportunity to wear nice clothes that were only for special occasions. Going to a grocer's shop around the corner did not justify wearing pretty clothes but riding a train to go and see a movie or going to a department store did. When I look back, my mother must have looked forward to those occasions to escape from mundane housekeeping work and wrap herself in a pretty dress and perfume. When I entered my teenage years, I fell in love with jeans and dark-colored t-shirts. When we were out for this ritual mother-daughter shopping, my mother used to insist on buying me clothes in soft

colors like pink. But I was always drawn to not so feminine colors. However, my choice of clothes back then was not because I did not care for fashion. My mother used to open my chest of drawers and sigh over my wardrobe which consisted of nothing but dark colors. I believe that worn-out jeans and dark colored tops was my fashion statement.

Growing up in Japan as a girl it seems that I always resisted the idea of being a traditional Japanese woman. At the time I felt as if society was telling me that my job was to become a good wife and mother who could cook and clean for her husband and children. I used to hate home economics class at school. Cooking and sewing were the last things I wanted to learn. I did not want to grow up to fit into this mold that society had prepared for me. Perhaps that is why I didn't want to wear anything feminine or pretty.

My fashion statement has since changed. I still don't like to wear pink very much, but I do wear bright colors and soft colors such as yellow. I like to wear something feminine from time to time, though jeans are still my favorite. And I now love to cook. I think this is because since coming to the States I have been able to develop a certain concept or attitude and say that I wear these clothes and cook because I choose to, not because I am supposed to.

美国来信 (49) 时尚是表现自己

Harumi N. Stephens

[2006年11月24日]

说起“时尚”，大部份人会联想起“打扮”吧。我以前在服装行业工作过，所以我首先联想的是衣物。但时尚同时也指吃什么、开什么车、怎样休假等。实际上“时尚”渗入我们生活的几乎所有领域。时尚不仅诉诸于视觉，而且深入至概念、姿势、哲学。或者说，因为有概念、姿势、哲学，所以产生了时尚。归根结底，时尚是表现自己的手段。

童年时代，去看电影、去百货商店购物等特别的场合，可以穿上外出穿的衣服。但到附近的食品店就不可以穿漂亮衣服，只有乘电车去电影院和百货商店时可以穿。回想起来，这时我母亲无疑是摆脱日常家头细务，穿上漂亮衣裳，撒上香水的极少的机会。后来，我到了十多岁时，吸引我的是牛仔裤和暗色的T恤。和母亲一起外出购物时，母亲总想给我买如粉红那样色彩柔和的衣服，但吸引我的都是非女性化的色彩。母亲常打开我的衣柜，对着那些暗色衣物叹息。但这

都是我特意选择的。磨破的牛仔裤和暗色上衣，这大概是通过时尚表现我自己吧。

虽然我是日本社会培养的女孩，但我一直拒绝成为传统的日本女性。当时的社会告诉我，你长大以后就为丈夫和孩子做饭，打扫卫生，做个贤气良母，这就是你的任务。我很讨厌学校的家庭科目，绝对不想学习烹调，裁缝。

我无论如何不想进入社会为我准备好的这个框框。可能因为如此，所以不愿意穿漂亮的女服吧。

从那以后，我继续通过打扮表现自己。而自己也有了很大改变，现在虽不太穿粉红的衣裳，但也穿色彩明亮的，如黄色等衣服了。现在仍喜欢牛仔服，但也常穿女性化的服装，现在也很喜欢烹调了。来美国以后，我穿这样的衣服，做饭，这些并不是谁规定我必须做，而是我按自己的概念选择的。

[翻译：王菲]

おしゃれについて

中尾 M. 豊恵子

[2006年11月22日]

一言で「おしゃれ」というのはどれを基本に言えるのでしょうか。フォーマルからカジュアルまで、いろいろと装い方はありますが、それぞれ約束事をわきまえての装いをするからこそ「おしゃれ」と言えるのではないのでしょうか。

ヨーロッパを旅行中、イタリアのホテル内にあるレストランで見かけたことがあります。半ズボンの男性とタンクトップの女性が入店を断られていました。ヨーロッパにはドレスコードが厳しいホテルやレストランがあります。それはホテルやレストランが格式ばっているというばかりではありません。その店での食事、会話、雰囲気を楽しんでもらうため、他の客に不快感を与えないために必要なことなのです。

とはいえ、半ズボン、タンクトップという姿がまったくいけないということではないのです。夏の屋外でのバーベキューなどにはこうした装いこそが似つかわしく、フォーマルな装いはかえっておかしなものでしょう。

真におしゃれということは、TPOをわきまえた装いをするのではないのでしょうか。

フォーマルがふさわしい場にカジュアルな装いで、逆にカジュアルがふさわしい場にフォーマルな装いで出かけ、気恥ずかしい思いをされたことはありませんか？

About “dressing smartly”

Toeko M. NAKAO

[November 22, 2006]

How can we say “dressing smartly” in one word? There are many forms of dressing from casual to formal and I believe “smart dressing” is the one based on certain premises agreed upon by everyone.

While travelling in Europe, one day in Italy I saw a young man in shorts and a young woman in a tank top rejected from entering a restaurant in a hotel. There are many hotels and restaurants in Europe where dress codes are very strict. This is not because they stick to formalities but because they want to keep other guests feeling comfortable. They want their customers to enjoy food, conversation and atmosphere and they do not want to make other parties feel uneasy.

This does not mean shorts and a tank top are totally wrong. They would fit at an outdoor barbeque party in summer and in a case like this, formal dress would be totally out of place. I must say that real smart dressing is based on good knowledge of TPO (Time, Place, Occasion).

Have you ever been embarrassed at turning up at a party in casual dress when other guests were in formal dress, or the other way round?

[Translated by: T. NITTA]

谈谈时尚

中尾 M. 丰恵子

[2006年11月22日]

「时尚」简单的一句话究竟指的是哪一种时尚。从盛装到便装、打扮方式各种各样、但根据场合不同打扮也不同是不是就是所谓的「时尚」？

在欧洲旅行的时候，曾在意大利餐厅看到这样的情景。穿着短裤和宽松式便装的男女被拒绝进店用餐。因为在欧洲要在高级餐厅或饭店用餐要穿晚礼服才能进店。因为这关系到旅馆及餐厅的体面，也为了考虑到在店内进餐的客人能高高兴兴地边用餐边会话，即不要给别人带来不愉快的感觉所必需的礼节。

尽管如此，穿短裤、宽松式便装的人一点儿也没有倒也未必。夏天在屋外野餐之类的时候比盛装更合适的当然是便装了。

真正的时尚指的不就是如上所说的吗？该盛装出场时却穿着便装，该便装的时候却盛装，这样的话连自己也会感到羞愧，难道不是吗？

[翻译：王晓菁]

[2006年11月28日]

中国の諺に『江郎、才尽ク』というのがある。文才が衰えてくることの喩えだ。去年から無理な投稿をしてきた僕はまさにそのいい例で、持っているネタはほぼ使い尽くしてしまった。おまけに今回のテーマは「お洒落」。余計に難しい話だが、文才が尽きた「江郎」になるのは嫌だ。むしろ僕のようなおのぼりさんこそ、多くのお洒落を見てきたはずだと思って今回の文を書いてみた。

少年時代は田舎の大学施設で過ごした。キャンパスでは、花柄スカート姿のお嬢様というだけで、もうそれはとてもお洒落な人だった。

大学もそこへ進んだが、流石に全国の大都市から若者が集まって来ていた。それでも、夏海辺には、ビキニ姿の女性さえ居なかった。男子学生でも、サングラスをつけているだけで十分にお洒落だった。

いまの時代なら、相当うまく選ばない限り、スカートが花柄なだけでは絶対ダサイと言われる。サングラスをつけるにしても、周りの雰囲気合っていないと、怪しい人に見られてしまう。僕が大学に居たころは、お洒落に敏感のはずの若者でも、服や化粧でお洒落をするのは珍しかった。少なくとも1歳上で同じ学部の姉貴は、鮮やかな服も持たず、化粧もしていなかった。

あの時代では、お洒落と言うと、映画や舞台に限られていた。家にあったお洒落が関係しそうなものは、アマチュアでダンスをしている小母さんの写真だけだった。お化粧と言っても、少し頬紅をつけている程度だった。

十数年前、僕は憧れの東京にやってきた。同じ田舎出身の先輩は、決まって「こいつは田舎の田舎からきたやつだ」と僕を紹介した。おのぼりさんから変身したい僕は、都心に近い勝鬨橋すぐそばのマンションを借りた。晴海通りに沿って銀座へ歩いて行っても20分と掛からない場所だった。しかし、僕は歌舞伎座の先の昭和通りを越えても、銀座通りだけは通れなかった。それでも、築地から、新橋演舞場と歌舞伎座に出入りする女性は美しく見えた。着物をまとった奥様たちが草履を穿いて歩く姿は、僕にとってはもう堪らなくお洒落だ。僕は銀座を遠慮し、遠回りして、日比谷公園まで行った。帝国ホテルと宝塚劇場に挟まれた通りでは、たまに宝塚女優を見かけた。周りで騒ぐファンを見て、超人気スターだと気づいた。田舎者の僕はあの時、「もう、お洒落の極致を見たぞ」と感激したものだ。

家内と娘は僕より5年遅く日本に来た。さすが、大都市北京の大学で勤めた家内は、お洒落を求める勇気がある。彼女に連れられ、僕は遂に歌舞伎座の前を超えて、和光ビルと三越デパートのある交差点まで行くことができた。

とは言っても、僕たちのようなサラリーマン家

庭では、高価なブランドへ手が届かない。女性にプレゼントするなら銀座かねまつだと友人に言われたが、僕はそこまで高いものを買えない。幸い銀座ワシントンには、僕でも買える靴があった。ワシントンの店員はおのぼりさんにも優しくかった。ワシントン本店が改装中だったので、臨時店舗で買い物をした。臨時店舗は五丁目の本店からだいぶ離れていたのだが、帰りに本店前を通りかかると、いきなり「ありがとうございます」と声を掛けられて驚いた。ワシントンの案内の方に、店の紙袋を見られたのだろう。なんて素敵なお洒落な町だと思った。

子どもの友人には、バーバリー尽くしのお嬢様もいる。でも僕は子どもに伊東屋の文房具ぐらいしか買ってやれない。しかし娘の自慢は、APPLEストア銀座で買った一番古いタイプのiPodだ。僕にしてみれば、昔はオタク世界の者にしか分らなかったかじられた林檎。それが今や最高のお洒落だ。けれども、ルイ・ヴィトンの小さい財布にも及ばない価格で、僕でも買えた。今の流行のお陰で、これをお洒落と言っても、文句は言われないうら。

伝統、モダン、日本、西洋をコンパクトにした銀座は、僕にお洒落な日本を見せてくれた。

ここまで気のむくままに書いてきたが、僕は少し調べてみた。

とあるネットリサーチによると、「おしゃれな国と聞いて、あなたはどの国を思い浮かべましたか。」の答えの1、2位はフランスとイタリアである。このアンケートの対象は、男女10代から60代だったが、1、2位の結果は驚くほど一致していた。

欧州へ行ったこともない僕には、ピンと来ない気もするけれど、納得するしかない。

イタリアと言えば、グッチ、プラダ、アルマーニ、フェラガモ等々。フランスと言えば、シャネル、セリーヌ、エルメス、カルティエ等のブランドがある。この両国はファッションの発信地である。お洒落を商売にする方には、無視できない国だ。でもそのファッションに市場を提供している日本も、お洒落な国のはずである。

語源由来辞書によると、「おしゃれ」とは、『化粧や服装など身なりに気を配ること。美しく装うこと。また、そのような人』。漢字で「洒落」と書くのは、心がさっぱりして物事にこだわらないさまを意味するそうだ。

なるほど、化粧や服装を極める宝塚女優や歌舞伎俳優以上に、お洒落の表現ができる人たちはいないだろう。そういえばイタリア人やフランス人は、なんとなくものごとくにこだわり過ぎないような気がする。しかし、ブランドものが買やすいとしても、お洒落になるのは容易ではない。例えば、一流デザイナーのオートクチュールでは、かなり厳しくモデ

(次ページへ)

おしゃれ (つづき)

李水

ルさんを選んでいるにも関わらず、一流の衣装のお洒落を表現できない場合がある。

また、化粧でお洒落を極めることができる一方、下手な化粧で美人を殺してしまう場合もありえる。宋代の蘇東坡の詩句『西湖ヲ把ッテ西子ニ比セント欲スレバ、淡粧、濃抹、総テ相宜シ』は、究極のお洒落を言葉にしたものだ。西子は伝説の美女、西施のことである。お化粧をしないはずはない。西湖も人手が加えられているが、造作の痕跡はあまり見えない。共にさりげない美を見せてくれているのだ。

西湖十景の一つである白堤は、京劇の名作「白蛇伝」の白娘子が入水した所といわれている。白娘子は無類の美人として有名だが、京劇での彼女の化粧は何世代も変わらず白一色だ。

僕は昔から映画、舞台にしかお洒落を見たことがない。今でもたまに芸能人のお洒落に注目する。例えば、セレブを売りにしている芸能人は、頑張っているが、お洒落まであまり感じない。僕から見ると、彼女たちの振る舞いから余裕が伝わってこないのだ。

しかし、夏の甲子園を盛りあげてくれた早実高校の斉藤選手は、お洒落の手本を見せてくれた。緊張が高まる試合中にも変わらず、この若者がたたまれた青いハンカチを使う姿は、自分とチームメートを落ち着かせ、観衆にも鮮やかな余裕を見せた。ある意味では、あの青いハンカチをブランドにしてしまったほどのお洒落だった。

僕自身は、今も昔一人で日本に居た時と変わらぬ正真正銘のおのぼりさんだ。が、家族が揃ってから精神的な余裕ができて、上品な人たちが溢れる銀座を平気で散歩できるようになった。

衣装や化粧をお洒落にするのは必須条件だが、お洒落は、衣装や化粧以上のものをさりげなく伝えるものだ。さらに周囲に余裕を与えることができれば、それこそが最高なお洒落だ。

ここまで書いてきて、自分でも驚くほど、お洒落を再認識した。万が一この投稿がお洒落な編集スタッフたちに認められたら、僕も「江郎」にはならなくてすむだろう。

Fashion

LI Shui

[November 28, 2006]

In China, there is a saying “Jianglang writes himself out.” It refers to a writer who almost exhausts his writing ability. The saying exactly refers to me as I have written myself out through contributions (to SW) since last year. What's more, the theme given to me this time is “fashion” which is outside of my field. Nevertheless, I thought it over again as I did not want to be another Jianglang and thought that a country boy like me might have a different observation on new “Fashion.” Thus, I bravely volunteered to write again.

I passed my boyhood at a college campus in the remote countryside. At the campus, a girl who wore a skirt with flowers printed on it was considered sufficiently fashionable. I entered the college, at the campus on which I spent my boyhood. In the college, there were many students from big cities all over the country. Yet, it was almost impossible to see a girl in a bikini at the seaside in the summer. The boys who just wore sunglasses were considered dandies.

Today, a girl may be called a hick if she wears a skirt with a simple flower pattern unless the pattern is carefully selected to match with the environment. A guy who wears sunglasses may be seen as shady unless it fits with the atmosphere. On the college campus in those days, it was rare to see students dressing up in dandy clothes or girls wearing cosmetics. My one-year-older sister was in the same faculty of the same college, just a year ahead of me. As far as I

remember, she never had fancy dresses or used cosmetics. Fashion seen in those days was limited to movies and stage shows. At my house, the only a sign of fashion, if it could be called so, was a picture of my aunt who practiced dancing with a slight touch of rouge on her cheeks.

I came to Tokyo—the city I dreamt of for a long time—some 10 years or so ago. A senior in my college days, a native of the countryside like me, was in Tokyo. He took me around and introduced me to friends as a country boy from a far remote country. Wishing to convert myself into a city boy, I rented a room in a building near Kachidoki Bridge close to the center of Tokyo. The apartment was just a 20-minute walk from Ginza crossing via Showa-dori (street). Yet, I was not brave enough to go through Ginza-dori after passing Kabuki-za (Kabuki Theater and Showa-dori. While it was some distance from Ginza, the ladies visiting Shinbashi Enbujo and Kabuki-za were sufficiently beautiful. Women decently dressed in Japanese kimono with matching sandals were seen to be the height of fashion.

Refraining from going through Ginza, I detoured and walked to Hibiya Park. On the street between the Takarazuka Theatre and the Imperial Hotel, I had a chance to meet Takarazuka actresses once in a while. I noticed that they were considered superstars by the sudden gathering of people. Such a scene often gave me, an old country boy, a feeling of excitement to see and feel the latest fashion.

(Continued on next page)

Fashion (Continued from previous page)

LI Shui

My wife and daughter joined me in Japan 5 years or so later. Since my wife had experience working in a college in Beijing, the capital and one of the biggest cities in China, she was, as expected, brave enough to run after fashion. Walking behind her, I finally crossed to the Kabuki Theatre and to the crossing where the Wako Bldg. and Mitsukoshi Dept. store stand, the center of Ginza. Nevertheless, these famous stores with the highest prices are far from our reach. I had a tip from my friend before that Kanematsu in Ginza was the place to buy a present for your lady. Sorry! No dice! Fortunately, we found a shoe store nearby, called "Washington" and prices seemed more moderate and closer to our reach. The main store of "Washington" was being renovated and we were led to a temporary store. All the sales clerks were kind to us "out of country" guests and we bought some shoes. On our way home, we passed through the main store of "Washington." All of a sudden, a gentleman standing in front of the store called to us and said "Thank you so much." We were surprised and soon noticed that the shopping bags we had were from their store. How enchanting and wonderful the town and people are!

My daughter has a friend clad in Burberry. For us, a family of salaried workers, these brand goods are far from our budget. The most we can buy is stationery from "Ito-ya." What my daughter is proudest of is the oldest type of iPod I bought for her at the Apple Store in Ginza. The logo of the bitten apple which was known only by *otaku* (geeks) before, is the most advanced fashion today. I bought it at a price less than a small Louis Vuitton purse. Nobody will complain to me if I say it is the latest fashion, the logo of the bitten apple, in view of the recent trends. The Ginza seems to me a combination or mixture of traditional, modern, Japanese and European and represents the latest fashion of Japan. I have been writing randomly so far and at this point, I wanted to examine some other aspects.

There is a net-research questionnaire recently made by a certain group. "Which country do you think is the most fashionable?" was the question. The first and second were France and Italy. The questionnaires were sent to both men and woman between their teens and their sixties, and the results are surprisingly similar among all ages. I have to accept the results though I have not been to Europe. Famous Italian brands are Ferragamo, Gucci, Prada and Armani and French brands are Chanel, Celine, Hermes and Cartier. These two countries are well known as the source of fashion in the world. For those who wish to make their business in fashion, these two countries cannot be overlooked. On the other hand, Japan is the country that provides the largest market in the world for fashion goods and therefore Japan should be called one of the most advanced countries in the world in the sense of fashion.

According to a language dictionary, the word fashion means "to pay attention to makeup and what one wears." To make up well is written in Kanji as "洒落" (share, or o-share

in Japanese) and it means to keep oneself clean and not argue about anything. Really, not many people can compete with actors and actresses in Kabuki and Takarazuka in makeup or in costume. To think of it, French and Italian people seem to be open-minded and do not argue. On the other hand, easy access to these expensive brands does not mean that they are most advanced in fashion making. To be really fashionable is not easy to attain. For example, those designers of haute couture strictly select fashion models of the highest classes, yet often they cannot makeup or produce the highest results. While they select the most beautiful models, they might suppress their beauty due to poor technique in making up.

蘇東波 (So-Tou-Ba) in the age of Sou (宋), described in his poem the highest standard of beauty or fashion. 「若把西湖比西子、濃裝淡抹總相宜」(西湖ヲ把ッテ西子ニ比セント欲スレバ、淡粧、濃抹、總テ相宜シ)。Compare the beauty of the Lake Xihu with Xizi (西子), both are most beautiful either in thinner or thicker make-up. Xizi (西子) is XiShi (西施) a beautiful lady in legend who lived near the lake. She must have made up daily. The lake Xihu had a human touch but the trace is not seen clearly. Both must have shown the highest beauty of nature without much trace of human touch.

White bank (白堤) is one of the 10 most beautiful scenic places around Lake Xihu and is said to be the place where the White Girl (白娘子) in "白蛇伝" (Story of the White Snake) went into the lake. The white girl is famous for her beauty and she appears on the stage always made up in white through many generations. I saw real fashion only on the stage and even today, I watch fashion or makeup being done by artists. For example, those entertainers known as "celebs" try to work hard but I cannot feel an edge or relaxation from them. I mean they are not fashionable.

On the other hand, the baseball pitcher of Waseda Jitsugyo, Mr. Saito gave us an example of the highest fashion. At the tensest point in the game, the young man took out a folded blue handkerchief from his pocket and slowly wiped away perspiration, which helped all his teammates relax. Even audiences had a moment of relaxation. I should say that the blue handkerchief was made a symbol, which should be called the highest fashion of the year.

I, myself, was still a pure country boy, when I first came to Japan. But when my family joined me, I began to feel some relaxation in my way of thinking. Today, I feel I can walk in Ginza where people with the highest fashion gather. To wear sensible clothes and modest make-up might be a necessity, but the fashion itself should be the means to tell to others more than that. If we can give a feeling of relaxation to those who see us, it might be the best fashion. At this stage, I seem to realize what the real meaning of fashion is. I might no longer be called Jianglang if this contribution of mine is accepted by the fashionable SW staff.

[Translated by: A. KUSHIMA]

[2006年11月28日]

如果用我的例子解释中国的谚语“江郎才尽”的话。从去年起勉强的投稿，把我有的素材几乎都用完了。况且这次的标题是“时髦”，对我来说就更困难了。可我不想做“江郎”。相反象我这样的乡下人的眼中，应看到更多得的时髦。因此我得以完成此文。

少年时代，虽说是生活在大学里，可那所大学位于乡下。在校园里如果找到穿花裙子的女孩，那就是漂亮的人了。青年时代进了同一所大学。从全国的大都市聚集来许多的年轻人。即使这样，夏天的海边，也没有穿比基尼泳衣的女性。偶尔有戴太阳镜的男学生，那就非常潇洒了。

现在，如果不经心挑选裙子的花色，会被当作老冒。如果不考虑氛围戴上太阳镜，会使人感到可疑。大学的时候，既使是对时髦敏感的年轻友人，也很少顾及穿戴和化妆。和我同校的只比我大一岁的姐姐既没啥漂亮衣服，更别谈涂脂抹粉了。

那个时代的时髦局限于电影中，舞台上。在我家，唯一的时髦是业余舞蹈演员的姨母的照片。说是化妆，也只不过是涂个红脸蛋罢了。

十几年前，我来到了向往已久的东京。同是乡下出身的先辈介绍我的台词是“这个家伙是从乡下的乡下来的”。想摘下乡下人这顶帽子的我，在东京都中心胜关桥附近借了间公寓。沿着晴海路，到银座也不过20分左右。但是我状着胆也只敢越过昭和通路，走到歌舞伎座前，还不敢到银座路。

从筑地往银座看，看得见进出新桥演舞场和歌舞伎座的漂亮女性。脚踏木屐，身穿和服的太太们的走路姿势，潇洒得不行。我避开银座，绕远到日比谷公园。在帝国宾馆和宝冢剧场之间的街道上，有时看得到宝冢女演员。只要看周围的影迷兴奋的样子，就知道她们是多么受欢迎的明星了。这个时候乡下人的感叹是“时髦的顶峰也不过如此吧”。

妻子和女儿比我晚5年来日本。但是在大都市北京的大学里工作过的妻子，对时髦追求的勇气是我远不可比的。在妻子的带领下，我终于超越歌舞伎座，走到和光大楼和三越百货店的十字路口了。

象我们这样的工薪家族，伸手高价名牌还比较困难。听说送鞋给女性作礼物的话，最好是金松牌皮鞋。可我还买不起。有幸的是银座华盛顿鞋店有我买得起的鞋。华盛顿店的服务员对乡下人也很客气。华盛顿店重新装修时，我们在临时店铺买了鞋。回家路上，令我们吃惊的是，在远离临时店铺的银座5丁目本店附近突然有人大声对我们喊「谢谢」。原来是装修中的本店服务人员。他一定是看见了我们拿的银座华盛顿店的包装袋。这里的服务态度也太好了。

我女儿有个全身名牌的朋友。可我只能给孩子买几件伊藤屋的文具。但是我女儿有在银座苹果商店买得最古典的iPod。对我来说那个被咬了一口的苹果商标，是我们这样的技术人员最高的洒落。而且用买路易维等最小的钱包的价格，就能卖一台。现在流行iPod，

即使把这个烂苹果说成是洒落，也不会被抱怨吧。

集成了传统，摩登，日本，西洋的精华的银座，让我看到了洒落的日本的一角。信马由缰地写到这里。我还是调查了一下。

据网上的民意测验。“关于洒落的国家，你能想到是哪个国家？”的回答的1,2位是法国和意大利。这个调查的对象包括男性，女性。年龄是从10岁到60岁的各个年龄段。然而1,2位的结果令人吃惊地一致。

说实话，我连欧洲的边都没去过。虽然丈二和尚摸不着头脑。可也不得不服气。提起意大利，有古奇，普拉达，阿玛尼，费拉哥莫等的名牌。

提起法国，有谢纳，赛琳娜，赫米斯，卡地亚等的名牌。

这两个国家是新款时装的发信地。是做时装生意的商人无法忽视的国家。而提供时装市场的日本，无疑是可以被称为一个洒落国家。

根据词源由来辞典，洒落是精心化妆或者讲究穿戴。洒落意味着美的装束，或者穿戴优雅的人。汉字“洒落”，有心境淡泊，不拘小节的含意。

的确，歌舞伎男演员和宝冢女演员，通过服装和化妆把洒落表现得淋漓尽致，无人可比。意大利人和法国人也令人感到不拘小节。

但是名牌易买，洒落不易。甚至一流的设计师的高级服装店，也非常严格地挑选模特。即使这样，也常常无法表现出一流服装的洒落。

另外，化妆可以表现洒落，但是水平不高的化妆可以让美人变丑。宋代苏东坡的诗“若把西湖比西子，浓装淡抹总相宜”是洒落的最佳解释。西子不可能不化妆。西湖也经过人工雕琢。然而几乎看不出造作的痕迹，若无其事地表现着美。西湖十景中的白堤，是名京剧白蛇传里的白娘子投水之地。白娘子无疑是极致的美人，但是她在京剧里的化妆几代都是不变的白一色。

过去我只能在电影中，舞台上欣赏到洒落。现在偶尔也注意艺能人的时髦。比方说，电视里以奢华为特色的艺能人的确很努力，但是她们的时髦几乎表现不出洒落。在我看来，她们表现不出洒落的游刃有余部分。

但是今夏的甲子园中学野球比赛中，早实高中的斋藤选手给出了一个洒落的范例。这个非凡的年轻人在紧张比赛中镇静自若，用叠得整整齐齐的淡蓝色手绢擦汗。队友们也随之冷静起来。让观众感到游刃有余。从某种意义上说，是这个小伙子使那种淡蓝色的手绢成了名牌。

在日本，我过去一个人的时候是，现在也是一个正宗乡下人。但是家族团圆让我感到精神上游刃有余，即使是在满街高雅之士的银座也敢溜达溜达了。

漂亮的服装和精致的化妆是洒落的必要条件。时髦的人如果若无其事地，把超越服装和化妆的东西传达给周围的人，那才是最高尚的洒落。

写到这里，我吃惊地再认识了洒落。万一被洒落的编辑认同，我便可以庆幸自己没有变成“江郎”了。

おしゃれ

山本 いづみ

[2006年11月20日]

TPOという言葉がある。おしゃれするにも時間、場所、場合を考えなくてはいけない。小学生のころ担任の誕生日会や式典には親に言われたとおりに晴れ着『おしゃれ』で登校した。しかしクラスメートからは「自分の誕生日会でもないのになんでいい格好するのか、お嬢様だ」と言われ疎外され幼心に傷ついた。母は特別な日なのだからおしゃれをしなくては行けないと考えたのだろう。今は賛成できるが当時の私は周りとは違う＝仲間はずれにされるのが嫌で周りに服装を合わせようとした。

現在は多くの若者が服装＝個性の主張と考え自分の感性でおしゃれを楽しんでいる。だが実際はトラッド系、お嬢系などと数種に分類できてしまう。また自分なりにこだわりを持った服装でも周りとはあまりにも異なれば白い目で見られる。

国境を多くの国と面し、人種も多様な価値観が受け入れられる海外は自分の着たいもの、これと思う

もので目いっぱいおしゃれを楽しめるものと思っていた。先日ヨーロッパ圏アーティストたちの展示即売会に行ったときのこと。あるアーティストが、日本はおしゃれが自由にできてうらやましいと言っていた。彼女が言うにはオーストリアでは自分の感性で目一杯おしゃれをしていても周り（マジョリティ）と異なっていると白い目で見られるそうだ。日本は島国であり他民族との関わりが歴史上も少なく、少数派の価値観＝奇妙なものという関係はある程度納得できるが、ヨーロッパでさえ多数の意見＝正当という関係が成立していることに驚いた。

おしゃれは自分というものがしっかりと確立され初めて成立するものだと思う。どんなに流行でも、高価でもまた自分のイメージにまかせ着飾っても自分に似合わなければダサいのだ。おしゃれといわれる人は皆自分なりのこだわりを持っている。老若男女問わずおしゃれな人は輝いている。おしゃれ人になるには自分をもっとよく知ることが大切だと思う。

Dressy clothes

Izumi YAMAMOTO

[November 20, 2006]

As you know, there is an expression, “TPO,” (Time, Place, Occasion). Even when dressing oneself, it’s often necessary to consider time, place and occasion. I remember that when I was an elementary school girl, I used to go to school in my best or “dressy” clothes at my parents’ recommendation on occasions such as the birthday party of our class teacher and other ceremonies. However, when I was asked by my classmates “Why do you dress up even though it is not your own birthday party? You look like a prima donna,” my childish heart was broken and I felt like an out-cast. I guess Mother just wanted me to be dressed up on those special days.

Now I agree with that idea, but in those days I tried to match my clothes to those of my neighborhood friends in fear of being thought “different,” which would result in my being left out.

Many young persons currently wear dressy clothes with their own sense of style, thinking that the style is a way asserting their individual characteristics. However, clothes can really and finally be classified into several kinds such as traditional dress, or styles worn by rich people. Even if clothes are chosen with care, they are regarded with hostility if they are too different from those of others in the neighborhood. I have always thought that persons who live in many overseas countries bordering on foreign countries can

easily accept the diverse senses of values of various races and can enjoy their dressy clothes as they wish and other specific things. On the contrary, the other day when I went to an exhibition and sale held by artists from the European sphere, a certain artist said “I envy Japanese who can freely enjoy their dressy clothes.” She added that in Austria even if a person dressed up most carefully in his/her own style, the person would generally be regarded with hostility if his/her clothes were perceived to differ greatly from a majority of the neighborhood. Although I can acknowledge to some degree the supposition that since the Japanese living in an island country have historically not had enough communication with other races, a minority sense of values may be easily considered strange, I was surprised to learn that the majority opinion is really appreciated as the true opinion even in Europe.

I think that “dressy clothes” can be worn for the first time only when the style has been firmly established as one’s own characteristic. Regardless of how fashionable, costly or gorgeously dressed up the image is, the dressy clothes appear dowdy if they do not suit the person. All persons who are regarded as “fashionable” have their own quirks. Fashionable men and women of all ages glow. So, I think it is important for such persons to know more about themselves.

[Translated by: N. NARITA]

时髦

[2006年11月20日]

有个单词 TPO，说的就是打扮也必须考虑到时间、地点、场合。小学的时候班主任的生日派对或是学校庆典会时就按照父母所说「打扮」得漂漂亮亮地去了学校。但是却被同班同学说是「又不是自己的生日派对为什么打扮得这样、臭美！」一下子被冷落了不算，幼小的心灵也受到了刺伤。母亲大概是考虑到因为是特别的日子必须那样打扮一下吧。尽管现在是这样想了但当时我的思想就是不能和周围的同学不一样=即不愿意被周围人所排斥所以就随大流了。

现在许多年轻人可以随心所欲想怎么打扮就怎么打扮。但实际上还是有传统式淑女装、现代小姐装等许多区别。另外太追求自我穿着奇怪也会遭到白眼。

一直以为能在海外同不同国家的人、不同人种的思想接触后自己想穿什么也就是自己所想的就能通

过打扮而表现出来的了。前些日子去了一次欧洲手工艺者的展销会。其中有位艺术家就说羡慕日本人能自由自在地打扮好上街。据她说在奥地利即便自己想根据自己的性情想这么打扮和周围不一样的话还是好像会遭到白眼。日本是岛国在历史上和别的民族之间的关连较少，少数人的价值观一这种奇妙的关系在一定程度上是可以理解的，但很惊奇即使在欧洲也是以多数意见=一种正当的关系而被成立着的。

我认为打扮首先是以自我为主而成立的。但是即便是时尚、昂贵的打扮也要根据的个性来打扮和自己不相称的装饰是不合适的。被赞成很会打扮的人都有自己的打扮的原则。不管男女老少打扮得体的人都很光彩照人。还觉得要做会打扮的人最重要是要先学会了解自己。

[翻译：王晓菁]

英語で異文化再発見 / “Let's Rediscover Japan”

港区国際交流協会では、英語による「異文化再発見」の会を毎月原則第二または第三土曜日に開いています。

日本について、知っていると思っけていても、まだ見落としていることがあるかもしれません。また、海外のことを知ることで、日本のことを知ることもあるかもしれません。

このプログラムでは、毎回、スピーカーが一つの話題を提供します。スピーカーのお話を聞くだけでなく、参加者同士のフリーディスカッションの時間もあります。

興味をお持ちの方、ぜひ一度ご参加ください。新しい発見があるかもしれません。

日にち： 2月17日(土)、3月17日(土) 4月14日(土) 午後1時30分～3時30分

場所： 三田NNホール スペースD (港区芝4-1-23)

This program for rediscovering Japan is conducted in English. Meetings are held monthly on the second or third Saturday. Can you fully and confidently express yourself when discussing Japan and your own country? There may be some things you have overlooked or features which you will want to reexamine after hearing someone else's ideas. Meetings include time for free discussion among participants. Everyone is welcome!

Date: Saturdays, February 17, March 17 and April 14

Time: From 1:30 p.m. to 3:30 p.m.

Place: Mita NN Hall, Space D, 4-1-23 Shiba, Minato-ku, Tokyo

万国四方八方 (2) 外見は大切だ

岩船 雅美

[2006年12月9日]

「人は外見で判断するな。内面が大切だ」。

よく聞く言葉です。私も、ずっとこの言葉を信じていました。3カ月前にイメージコンサルタントのKさんにコンサルティングしていただくまでは。

ちょっと話は変わります。一カ月前に、早稲田大学の有志学生が主催した就職活動セミナーにゲストスピーカーとして出席しました。非営利団体への就職についてのアドバイスを話すためです。その場で、ある男子学生がこう発言しました。「私は、就職の面接の前に靴をピカピカに磨きます。それは、自分の外見に細やかに気を配るという、自分自身の内面を見ていただきたいからです。他の表現にすると、自分の内面の細やかさを、靴をきれいにしている、という外見によって表現したいのです」。この発言が、内面と外見の関係をよく現しています。外見は大切です。それは、その人の内面の表現だからです。

私がバンコクのビジネススクールに留学していたとき、「プレゼンテーションを行うときは、服装に注意するようにしてください。聞く人が、あなたに良い印象を感じなければプレゼンテーションは失敗します」と、教授が学生によく言っていました。実際、教室でも、プレゼンターがTシャツを着ている場合とスーツを着ている場合では、明らかにスーツの方がプレゼンテーションから受ける信頼性は高く感じます。でも、自分に合った服装はどんな風にしたらいいのでしょうか？ファッション雑誌は数多くあれど、果たしてどれが自分に向くのか、さっぱりわかりません。

ビジネススクールを卒業して今年の6月に日本に帰ってきてから、私はすぐにイメージコンサルタントのKさんに連絡をとりました。Kさんは、私が所属する国際NGOの理事を長く務めておられる方。イメージコンサルタントとは、クライアントが、ご自分の外見や雰囲気をも自分の意思で作り上げる「プレゼンスマネージメント」のコンサルティングを行うコンサルタントです。そのコンサルティングは、コミュニケーションについての研究者、社会言語学者のアルバート・メラビアン (Albert Mehrabian) の調査に基づいています。それは、相手の印象の7%は話の内容、38%は声のトーン、話すスピード、抑揚で、55%は話

し手の外見やボディランゲージで決まるというもの。つまり、第一印象、見た目のよさは、コミュニケーションを大きく左右する要因だ、という調査です。

Kさんは、プレゼンスマネージメントの必要性について、平易な説明をしてくださいました。「デートするときは、誰でも自分の外見にたいへん気をつかいますよね。ビジネスの場面だって同じことですよ。お客様に選んでいただけるようにね」。イメージコンサルティングは、その人の肌の色や性格をカウンセリングして、その人の魅力を引き出すような色使いの服装をアドバイスしてくれます。女性の場合は、化粧の仕方もコンサルティングに含まれます。詳しい理論については、私にはとても説明できないのですが、「その人の内面の良さを服装や化粧によって引き出す」のがプレゼンスマネージメントの中核だということはわかりました。

私は、それまで俗にアースカラーと呼ばれる茶色系の服装を好んでいたのですが、Kさんのコンサルティングを機に、青や白、上品なピンクや紫などの、シャープでコントラストの高い色を使った服装に思い切って変えました。これらの色の方が、私の肌の色に合い、また私の性格の強みである論理的な側面を外面的に表現してくれるというのです。

実際、私は、過去に、自分の意見を論理的にはっきりと表明することに、よくとまどいを感じていました。理屈っぽい人間だ、というネガティブな評価を受けることを恐れていたのです。しかし、服装を通して、論理性を自分の性格の強み、として外面的に表現することにより、自信を感じるようになるようになりました。自分の内面を臆せず表現できるようになった、ということでしょう。また、他人がどういう点に気をつけてお洒落しているのか、が以前よりも良くわかるようになりました。それは、その人の内面の表現なのですよ。

最近、「岩船さんはお洒落ですね」と言われることがあり、服装に気を使わなかった過去の自分のことを考えると、これは大きな驚きでした。今はこう思います。「人間は外見が重要だ。内面の豊かさをわかっていたいただくために」。

Every Direction of the World (2) Outward Appearance is Important

Masami IWAFUNE

[December 9, 2006]

“Don’t be deluded by appearances, the inner being is important.” This is a phrase we frequently hear. I myself had long accepted these words as true until three months ago when I had a consultation with Ms. K., an image consultant.

Setting this subject aside for a while, one month ago I attended a job seminar hosted by some volunteer students in Waseda University as a guest speaker. I was asked to speak about job hunting for non-profit organizations. After the talk one of the students stood up and said, “I always give my shoes a good shine before going to job interviews. I want to show the interviewers my inner self; that is I always try to give attentive thought to my appearance. In other words, I want to show my inner attentiveness by tidying myself up.” These remarks symbolize the relationship between the inner and outer self. Appearance is important, for it shows your inner world.

When I was studying at a business school in Bangkok, professors would tell us, “You should dress appropriately when you make a presentation. You won’t be a success if you can’t make a good impression on the audience.” A presenter wearing a suit really does seem more trustworthy than one wearing a T-shirt. What should I wear? I can’t tell what clothes suit me best; there are many fashion magazines though.

Right after coming back to Japan when I had finished at the business school, I got in touch with Ms. K. who has long been serving as a Director of the international NGO that I am with. An image consultant gives advice to his/her clients on how to make the most of themselves—their personalities and their outlook, which is called presence management. This is based on a survey by Albert Mehrabian, a social linguist who specializes in communication. He says

only 7% of the impression you give is from what you say; 38% is from your tone of voice, speed of speech and intonation; and 55% from your outward appearance and body language. In short, your appearance makes the greatest impression at a first meeting.

Ms. K. explained briefly the importance of presence management. “You are concerned about how you look when you have a date, aren’t you? Why shouldn’t it be the same in a business sense? You want to be chosen by your customers, don’t you?” An image consultant sees your skin color and talks with you to get to know your personality, and then gives advice on what color will bring out your hidden charm. How to put on your make up is included when you are a woman. The theory in detail is beyond my comprehension, but I know that the core concept of presence management is to present yourself advantageously through your clothes and make-up.

I used to wear brownish clothes called earth colors, but I changed dramatically after taking advantage of Ms. K.’s consultation. I started wearing sharp colors to give a contrast—like white and blue, refined pink and purple. Ms. K. says those colors match my skin and express my logical disposition which, she says, is my strength.

To be honest with you, I used to get embarrassed when trying to express myself clearly and logically. I was afraid of giving a negative impression. After following Ms. K.’s advice I felt confident in setting forth my strength through my outward appearance. I am no longer shy about showing my inner self. I now pay attention to the way other people look. Appearance represents your inner world, doesn’t it?

Some people recently said, “Mr. Iwafune dresses smartly,” which is a big surprise when I reflect on how I used to look. Now I believe appearance is important, to show your inner richness.

[Translated by: M. KAWASHIMA]

港区国際交流協会「交流サロン」のご案内

参加者が自由におしゃべりする場として、隔月第三金曜日の夜、「交流サロン」を開いています。200円程度のスナック菓子をご持参の上、ご参加ください。詳細はお問い合わせ下さい。Tel. 03-3578-3530

2月23日(金)、4月20日(金) 午後6時30分～8時30分
港区役所9階会議室

MIA Friendship Lounge – Let’s talk over a cup of tea!

We welcome your attendance at our MIA Friendship Lounge. The Friendship Lounge is not a lecture or a classroom. Our main purpose is to enjoy chatting, exchanging views and making friends over a cup of coffee or tea. The 3rd Friday of every 2nd month is your time to participate in mutual understanding and communication between Japanese and non-Japanese residents. Feel free to visit the space and please bring a snack worth 200 yen with you. For details, please call MIA at: 03-3578-3530.

Fridays, February 23 and April 20; 18:30-20:30
Minato City Hall 9th floor

交流社交室信息

为了促进，外国人和日本人的交流，隔月第三个星期五晚上，以下时间举办交流社交室，届时请邀请朋友一起参加。参加者请携带200日元左右的小吃参加。详细的情况请打电话问询：Tel. 03-3578-3530

2月23日，4月20日(星期五) 下午6:30-8:30 于
港区区役所9层会议室

[2006年12月9日]

「不要只凭外表去判断一个人，重要的是内涵。」

这句话是我们经常听到的，截至3个月前，我也一直坚信这句话。不过，在向形象咨询专家K先生请教以后，我的想法完全改变了。

1个月前，我作为嘉宾演讲人参加了早稻田大学的学生自发主办的求职研讨会，目的是介绍有关到非营利团体就职方面的事情。当时有个男学生说：“在就业面试前，我把皮鞋擦得闪闪发光，是希望别人能够看到我很细心地注意自己的外表，希望别人能够看到我的内心世界。换句话说，通过擦干净的皮鞋这一表面现象，我要表达自己细致入微的内涵。”这一发言充分体现了内涵与外表之间的关系。外表是很重要的，因为外表是内涵的体现。

我在曼谷的商业学校留学的时候，教授经常对学生们说：“向顾客进行说明的时候，要注意自己的穿着打扮。如果你不能给对方一个好印象，你的说明就会失败。”实际上，在课堂上进行说明的时候也看得很清楚，穿着西服进行说明，明显比穿着T恤进行说明时容易被人接受和相信。可是，适合我自己的服装应该是怎样的呢？虽然时装杂志很多，但我完全不知道哪一本的哪一套风格适合我自己。

今年6月，我从商业学校毕业回到日本以后，马上跟形象咨询专家K先生取得了联系。K先生长期在我所在的国际NGO担任理事。形象咨询，是向顾客提供指导，帮助顾客按照自己的意愿塑造自己的外表和气质的“外表管理”。这项咨询，是以进行交流的社会语言学者阿尔伯特·梅拉宾(Albert Mehrabian)的调查为基础进行的。该调查指出，在

决定对方印象的要素中，讲话内容占7%；声调、说话速度和抑扬起伏占38%；其余55%是靠说话人的外表和肢体语言决定的。也就是说，第一印象·外观的好坏是影响人际交流的极为重要的因素。

关于外表管理的必要性，K先生给我作了简明易懂的说明：“约会的时候，谁都非常注意自己的外表吧，商务场合也是一样的，这是为了让顾客选择你。”形象咨询的指导内容是：根据各人的肤色和性格，协助其选择突出自己魅力的服装色彩；对于女性，指导内容还包括如何化妆。我是说不清楚详细理论的，只能理解“通过服装和化妆可以突出体现一个人内在的长处”，这就是外表管理的核心。

我向来喜欢穿那种俗称为土色的褐色服装，借着向K先生咨询的机会，我下决心将服装颜色改为使用蓝色、色、高雅的粉红和紫色等色调强烈、对比度高的服装。K先生说，这些颜色比土色更适合我的肤色，同时，能够突出表达我性格中较强的逻辑性这一长处。

其实，过去我在清楚表达自己的逻辑思维时，往往感到踌躇，害怕别人认为我是那种好讲道理的人。但是通过选择服装，将逻辑性表现为自己性格的长处，使我感到有了自信。这意味着我变得勇于表现自己的内涵了。同时，比以前更加能够理解别人是在那些方面刻意打扮的，这就是一个人内心世界的表达吧。

最近，有人说“岩船先生穿衣服很讲究啊”，对于以往从未注意过自己服装的我来说，感到非常惊讶。现在我是这样认为的：“人的外表要讲究，这是为了表达自己丰富的内涵。”

[古川 智子]





さよなら戌年！ ようこそ、亥年！
Bye-bye Year of the Dog! Welcome Year of the Boar!



注連縄 (しめなわ)

神社や神棚などに見られる「しめなわ」の意味を御存知ですか？これは、一本の縄が境界を示し、外の不浄に触れさせないために内外を仕切るために用いられます。

日本の神である天照大神（あまてらすおおみかみ）が、天の岩戸からお出になった後、岩戸に縄を張り再び中に入れぬようにしたのが「しめなわ」の始まりとされています。

お正月に門松とともに戸口に「しめ飾り」を置くのは、家の中に神様だけを招き入れ、悪霊を入れず、無病息災・家内安全を願ってのこととされています。

Shimenawa

Do you know the significance of the thick rope, or “shimenawa,” that you see at a shrine or on the Shinto god-shelf in a home or office? It is a single rope indicating the boundary that separates the impure world outside from the pure one inside.

The word is said to have its origin in Japanese mythology. After Amaterasu Omikami (Japan’s mythical sun goddess), came out of her cave in the heavens, a rope (the original shimenawa?) was strung across the entrance to prevent her from going back inside.

At New Year’s, Japanese people decorate the entrances to their homes with “shimekazari” (shimenawa) and kadomatsu (pine branches), indicating their wishes for the good health and safety of the family within by preventing evil spirits from entering.

稻草绳 (西迈纳瓦)

您知道在神社和神龛等处常见到的「稻草绳」的意义吗？这绳子作为隔开内外的境界，用来防止外界的不净之物。

据说日本的天照大神（阿马泰拉斯澳米卡米），从天上的石洞里出来之后，在石洞门上设了绳网以表示不再重返洞中。这个传说被认为是「稻草绳」的开端。

新年与门松一起挂在家门口的「稻草绳」，被认为是能够挡住恶鬼，请进神仙，消灾防病，保佑全家的吉祥物。

編集後記

新しいジーンズを買ったら、いつもよりきれいに歩くよう気をつけるようになりました。10代の頃から愛用している香水は、どんなに緊張した仕事に向かう朝でも私をいつもの私にしてくれます。洋服の色やアクセサリーが元気をくれることもあります。「おしゃれ」というものは、「私に縁がない」などと敬遠してしまうものでなく、日々の生活を豊かにし、自分の気分を高めてくれるものでもあると思うのです。

次号では、皆さんのお茶についてのエッセイをお寄せいただきたいと思っています。マグカップにミルクたっぷりのコーヒーを入れて、手のひらでマグカップを包みながら友人と話したりする時間は、とてもリラックスして楽しいものです。国によってもお茶の種類や習慣などもあるでしょう。次号は「私とお茶」というテーマで、サウスウィンドの読者の皆さんからのエッセイを楽しみに待ちたいと思います。

編集長：ののがきあつこ

Postscript

I bought a new pair of jeans, and I became more careful about walking nicely. My favorite perfume from my teenage days always makes me feel like “myself” even if I have a difficult business appointment that day. And it often happens that the color of my clothes or accessories encourages me. Some people might say “I am far from Oshare/Fashionable” and try to avoid talking about it, but I think it enriches our daily lives and creates better conditions.

In the next issue, we would like to receive your contributions on “Tea.” I always enjoy chatting with my friends when I hold a mug filled with cafe au lait in my palms. Each country has various kinds of teas and customs for drinking it. We are looking forward to your contributions under the theme of “Tea and me.”

Editor-in-chief: Atsuko NONOGAKI

编辑後记

如果买了新的牛仔裤，会变得比平时更注意漂亮地走路。我从十几岁就喜欢用的香水，无论是去做多么紧张的工作的早上，也会帮我找回原本生机勃勃的我。西服的颜色和手饰也会把生气带给我。请不要把时髦想象成和自己没有缘分，敬而远之。时髦会丰富每个人每一天的生活，高扬每一个人的情绪。

下一期，请诸位撰写关于茶的文章。把用充足的牛奶冲开的咖啡放入茶杯，手托茶杯和朋友聊天的时光是多么开心，多么放松。我想，不同的国家也会有不同种的茶和不同的饮茶习惯。下一期的题目是「我和茶」。我们全体编辑成员都在盼望着来自读者的投稿。

编辑长：野野垣 安津子

[翻译：李水]



投稿募集

港区国際交流協会翻訳委員会では、紙上を意見発表／交換、討論の場として、多様性を認識し、一層深い理解と友好を互いに深め合うことを目的として「South Wind」を発行しています。皆さまの投稿をお待ちしております。なお、掲載についてはSW編集部で検討させていただきます。

- ① South Windに掲載された記事は港区国際交流協会の website に掲載されることもあります。
- ② South Windに掲載された記事についての著作権は港区国際交流協会に帰属します。
- ③ South Wind No. 54 のテーマ：「私とお茶」（投稿締切日＝2月20日）

投稿方法： 原稿は原則として日・英・中のいずれかを使用してください。投稿原稿の字数は800字以内でお願いします。

宛先： 105-8511 港区芝公園 1-5-25 港区役所 8階
港区国際交流協会事務局 South Wind 編集部
Fax: (03) 3578-3537 E-mail: s-wind@minato-intl-assn.gr.jp

Your Contribution is Welcome

By exchanging opinions with other people, who are from different cultures or backgrounds, in "South Wind," we hope we are able to recognize the diversity of our society and deepen our mutual understanding and friendship with each other. Please take full advantage of this opportunity to express your opinions! The Editorial Committee reserves the right to accept, reject and/or edit articles submitted for publication.

1. Minato International Association reserves the right to publish all articles submitted for publication in South Wind on their website (<http://www.minato-intl-assn.gr.jp>).
2. Copyrights on all articles submitted for publication in South Wind become the sole property of Minato International Association.
3. Deadline for articles on "Tea and Me" for South Wind No. 54 is February 20.

How to contribute: Please submit your essay written in Japanese, English or Chinese; essays should be less than 1,200 words.

Send contributions to: South Wind Editorial Room; Minato International Association
Minato City Hall 8th Floor, 1-5-25 Shibakoen; Minato-ku, Tokyo 105-8511
Fax: 03-3578-3537 E-mail: s-wind@minato-intl-assn.gr.jp

募稿

目前港区国際交流協会翻訳委員会出版名叫“South Wind”的小报。基于不同国家之文化风俗等，互相提出各种各样的意见，把该报当看发表所交换所想讨论各个意见之场所，进一步加深相互理解加强交流为其目的。欢迎各位积极投稿。将由编辑部研究决定是否采用。

- ① South Wind里登载的文章也可能在港区国際交流協会の website 里发表。
- ② South Wind里登载的文章的著版权是归港区国際交流協会所有。
- ③ South Wind No. 54 主题：「我和茶」（投稿截止日期＝2月20日）

投稿方法： 原稿原文请用下面的语言：日语、英语、中文，投稿原稿的字在800字以内，请多关照。

收件地址： 105-8511 港区芝公園 1-5-25 港区区役所 8楼
港区国際交流協会“South Wind”编辑部